2026年6月18日

報道関係者各位

クヴェレ美術館 開館記念展Ⅱ

Meet 美の交差点　日本近代洋画とシルクロードの精華

2026年7月18日（土）～2027年1月11日（月・祝）

①メインビジュアル

本展覧会は、開館記念展の第2期です。開館記念展ではクヴェレ美術館のコレクションを3期にわたって公開しており、1期では日本近代美術と東洋陶磁を紹介いたしました。記念すべき第2弾となる本展では、日本近代洋画とシルクロードにまつわる工芸作品を展示いたします。**テーマは「異国への挑戦とあこがれ」です。**

日本近代洋画からは、海を渡り、自らの表現を切り拓いていった浅井忠、岡田三郎助、藤島武二をはじめ、海外の芸術の中で自分の美意識を磨き、それぞれの個性を育んでいった藤田嗣治や佐伯祐三、国吉康雄らを紹介します。

一方で、日本にとどまった岸田劉生や萬鉄五郎らは、西洋からの影響を自分の内面で深め、独自の表現へと昇華していきました。セザンヌやゴッホへの憧れが画面いっぱいに広がる**水戸出身の中村彝による《ダリア》(1911年)は、昭和16年(1941年)の油絵遺作展覧会以来85年ぶりの公開となります。**

工芸からも「異国へのあこがれ」をテーマに、ユーラシア大陸を横断する交易路であったシルクロードにまつわる作品を紹介します。西アジアで生み出されたパルメット模様や唐草模様をあしらった作品、色鮮やかな唐三彩、豊かな唐のくらしぶりを今に伝える俑、そしてガンダーラからはじまり日本に伝わった仏教美術。悠久の時を超えて今に伝わる作品を通じて、古今東西を問わず変わることのない、「異国へのあこがれ」の旅をお楽しみください。

※一部の絵画と工芸作品は前期(～10/4)と後期(10/10～)で展示替えします。
(絵画は前・後期で各33点展示。うち12点展示替え予定。工芸は通期で約60点展示。うち3点展示替え予定)
※作品はすべてクヴェレ美術館蔵

【見どころ1】クヴェレ美術館の日本近代洋画コレクション初公開！

浅井忠にはじまり海外の地で自己の表現に挑み続けた藤田嗣治や、日本の油彩画を模索した梅原龍三郎、坂本繁二郎、熊谷守一など、当館屈指の日本近代洋画コレクションを紹介します。

【見どころ2】情熱を色彩に変えた画家・中村彝の《ダリア》85年ぶりに公開！

水戸市出身の洋画家・中村彝の、生命感あふれる《ダリア》を出品します。公の展覧会では実に85年ぶりの公開です。

【見どころ3】シルクロードの華麗なる名品を一挙公開！

水戸の地に優れた東洋美術コレクションを打ち立てた吉田光男氏。氏が収集した、シルクロードを通じて広がった華麗な模様と仏教美術、日本独自のいのりの美を一望できる名品を紹介します。

【見どころ1】クヴェレ美術館の日本近代洋画コレクション初公開！

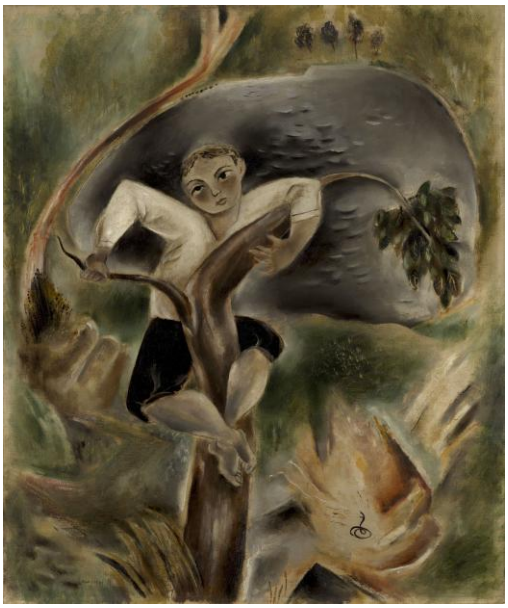
藤田嗣治をはじめ佐伯祐三、国吉康雄といった、日本から海外へ移住するなど異国の地へ身を投じて挑戦し続けた画家たちの個性あふれる作品をご紹介いたします。

藤田嗣治はエコール・ド・パリを代表する画家で、本場フランスの地で日本人としてのアイデンティティを落とし込んだ面相筆による墨線と、乳白色の下地を用いた裸婦像や猫、子供を主題とした作品で人気を博しました。本展では、藤田の戦前から戦後までの作品を展示いたします。なかでも《宝物》は、中晩年期の藤田が描いた子供が主題の優作で、1955年にフランスで開催された第4回「時代の証人の画家たち」展に出品されました。

藤田らしい独特の質感表現

②【通期展示】藤田嗣治《宝物》
昭和29年（1954）
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris ＆ JASPAR, Tokyo, 2026 E6419

遠近法にとらわれない構図に挑戦



【通期展示】国吉康雄《蛇に驚かされた少年》
大正14～15年（1921-1922）

佐伯祐三は渡仏後、フォーヴィスムの巨匠ヴラマンクに、自身の作品について厳しい指摘を受け、これまでのアカデミズムな画風からの脱却を図るべく格闘していきます。

本展では、当時の佐伯を代表する、建物の壁面を正面に捉えた大胆な構図の作品、《壁》を展示いたします。

自己を投影するパリの壁

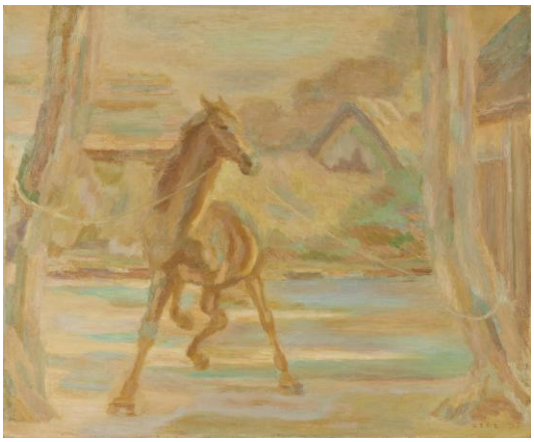
【前期展示】佐伯祐三《壁》大正14年頃（c. 1925）

西洋画技法でつかみ取った日本の美

③【前期展示】岡田三郎助《裸婦》
大正14年(1925)

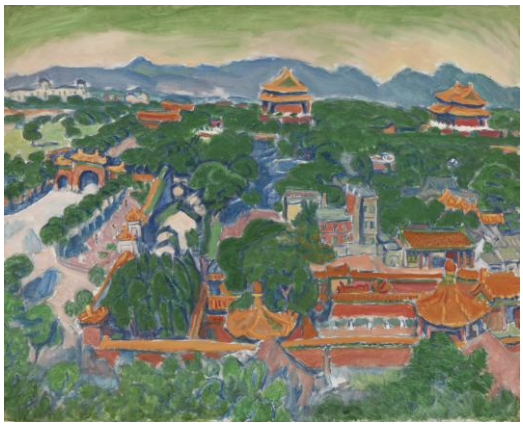
岡田三郎助《裸婦》は、日本的要素として金屏風のように描いた背景に、西洋の写実表現の女性像を配すことで、日本らしさを油彩画で表現した作品です。梅原龍三郎や坂本繁二郎など、海外への渡航を経て、日本における西洋画とは何なのか、その在り方を模索していった画家たちの軌跡をご覧ください。

淡い色彩の中に輝く生命



【通期展示】坂本繁二郎《仔馬》昭和12年(1937)

紫禁城の雄大な景色に感動



梅原龍三郎は帰朝後、作品に日本画で使用される和紙や岩絵具を用いたり、和風にしつらえた額装を施すなど、日本の文化に根差した素材を使用することで、日本の洋画の確立を目指していきました。

【通期展示】梅原龍三郎《北京風景　長安街》昭和15年(1940)

本番前の高揚感と緊張を表現

【前期展示】小磯良平《合奏》昭和48年(1973)

桃の色彩と黒いテーブルの対比が美しい

④【通期展示】安井曾太郎《黒卓の桃》昭和27年(1952)

渡欧留学が叶わなかった画家も多く、岸田劉生や萬鉄五郎らは、西洋からの影響を自身の内面で深め、独自の表現へと昇華しました。日本にとどまるも油彩画という表現方法の中で挑戦し続けた画家たちの作品をご覧ください。

単純化されてもあふれ出る可愛さ

⑤【通期展示】熊谷守一《牝猫》昭和34年(1959)

終生のパトロンに送られた一品

【後期展示】中村彝《静物》大正8年(1919)

熊谷守一は色と形の仕組みへ関心を寄せ、「モリカズ様式」と呼ばれる余分な要素を取り除いた線と面で構成される画風を築きました。本展では、モリカズ様式で描かれた代表作、《牝猫》を展示いたします。リラックスした猫の柔らかな表現からは、身の回りの自然へと視線を向け続けた熊谷の、優しいまなざしを感じることができます。長年多くの人々に愛され続けてきた可愛らしい傑作を是非ご覧ください。

【見どころ2】 情熱を色彩に変えた画家・中村彝の《ダリア》85年ぶりに公開！

水戸出身の中村彝は、日本にとどまった画家のひとりです。彝は肺結核に冒され海外への留学は果たすことができませんでした。しかし西洋から遠く海を隔てた日本の地で、巨匠らの画集や雑誌などを通してセザンヌやゴッホ、ルノワール、早くはレンブラントなど多くの画家から影響を受け、その表現を自己のものとして昇華していきました。

中でも《ダリア》(1911年)は、セザンヌやゴッホへの憧れが、躍動感あふれる筆致と鮮やかな色彩となってあらわれた傑作です。画面一杯のダリアの花からは燦然とした生命の喜びが感じられます。昭和16(1941)年に東京・日本橋高島屋にて開催された「中村彝氏油絵遺作展覧会」以来、公には実に85年ぶりの公開となります。

躍動する生命の輝き

⑥【通期展示】中村彝《ダリア》明治44年(1911)

【見どころ３】　シルクロードの華麗なる名品を一挙公開！

故・吉田光男氏から寄贈いただいた吉田コレクションからは、シルクロードを通じて広がった模様や仏教美術、日本へ伝わった祈りの美にまつわる作品を取り上げます。シルクロードによって培われた様々な意匠と、唐時代の華麗な唐三彩や俑、日本の古瓦や猿投・常滑のやきもの、経筒など多彩な名品を通して、東西文化交流の歴史と、日本独自の美意識が育まれていく過程を楽しめる内容です。

⑦　《仏頭》3世紀

ポイント1　魅力的なシルクロードのエキゾチックな模様とかたちをたのしむ

シルクロードは、ユーラシア大陸や海上を横断する交易路のことです。特に砂漠地帯を通り抜ける陸路は、水の湧くオアシス同士を繋ぐように道ができ、ラクダに乗った商人の集団・キャラバンによって、多くの人々や物が行き交うことで、文化の交流が生まれました。

特に今回は、宝相華やナツメヤシを抽象化したパルメット模様、そこから派生した唐草模様、円を連ねた連珠円文など、シルクロードを経由して広まった意匠に着目します。なかでも《白釉加彩繧繝(うんげん)文壺》は赤・黒・青と様々な顔料で彩色がされ、中央にはパルメット模様が施される大変珍しい壺です。その他にも西域のソグド人の風貌がうかがえる俑、《加彩武人》や鮮やかな宝相華文がはえる唐三彩の《宝相華文三彩洗》など、東西交流から育まれた意匠と造形美をご堪能いただけます。

華麗な色と模様の競演

⑧　《白釉加彩繧繝文壺》
唐時代（7-8世紀）

⑨　《宝相華文三彩洗》唐時代（8世紀）

いとなみを今に伝えるタイムカプセル

⑩　《加彩武人》北斉時代（6世紀）

ポイント2　仏教の広がりと共に各地で生まれた多様な作品を一挙公開

仏教は、紀元前6～5世紀、現在のインドで悟りを開いたブッダによって教えが説かれたことから始まります。ブッダの死後、仏教の教えを各地へ広める役割を担ったのもシルクロードでした。教えが広まるとともに信仰の対象となるものも多数製作されるようになります。当初は遺骨や遺灰が対象となり、それを納める器がつくられ、さらに時代が経つとブッダの姿を仏像として具体的に表現するようになります。

吉田コレクションにはこうしたシルクロード各地の信仰のかたちを今に伝える作品が多く含まれています。本展では仏の遺骨を納めたとされる《舎利容器》や、地域や素材の異なる仏像を一挙公開します。

端正なかたちと柔和な顔立ちの仏像など仏教美術を一挙公開

《舎利容器》3世紀

左から《女性全身トルソー》《加彩如来塑像》《女性供養者半身像》《仏座像塼》すべて4世紀

ポイント3　日本におけるいのりのかたちを味わう

シルクロードの文化は最終的に日本へももたらされました。特に仏教は日本では飛鳥から天平にかけて多くの寺院が建立され、盛んに信仰されるようになります。また仏事に用いる道具も、使用される数が増えたことで国内での生産が始まります。中でも愛知県名古屋市東部に位置した猿投(さなげ)では元々は金属製だった鉢や水瓶をやきものでつくりました。また平安時代になると当時の世相などから経典を写し、願いをこめて土に埋める埋経が流行します。経典を保護するために金属製の経筒やさらにそれを覆う経筒外容器や経塚壺も作られ、様々ないのりのかたちが展開されました。大陸とは異なる、独自の美意識の中で花開いた日本の仏教美術の奥深さを飛鳥・天平期の古瓦や猿投、常滑の名品と共にご紹介します。

建物に華開く唐草の瓦

⑪《均整忍冬唐草文軒平瓦（法隆寺出土）》飛鳥時代

先端の宝珠が可愛らしい

《青銅経筒》平安時代

雄壮なたたずまいでお経を護る

《経塚壺》平安時代

貴族も愛したうつわ

《灰釉薬壺》平安時代

クヴェレ美術館 館長メッセージ

「鑑賞とは、繰り返し愛でること」

クヴェレ美術館は、多くの作品を一度に大量にご覧いただくのではなく、あえて一点一点の作品と静かに向き合える「小さな宝石箱」のような美術館を目指しております。
開館記念展第2期となる本展では、「異国への挑戦とあこがれ」をテーマに、日本近代洋画とシルクロード工芸の優品をご覧いただきます。

それぞれ異なる文化を育んできた東洋と西洋は、広大な陸地や海によって長く隔てられていました。しかし近代に入り、こと絵画の世界においては、両者は時に激突ともいえる出会いを経験します。そのなかで明治以降の先人たちは、西洋から学びながらも単なる模倣にとどまることなく、自らの感性と伝統を重ね合わせ、新たな表現を生み出していきました。

本展では、海を渡り新たな表現を求めた画家たちと、水戸出身の中村彝など母国に留まり憧れを持って研鑽した画家たちの熱い情熱と、東西文化の交流が生み出した工芸の魅力を通じて、異郷への挑戦の軌跡をたどります。異なる文化の狭間で揺れ動きながら、新しい美を切り拓こうとした先人たちの苦悩と歓びを、当館のコレクションから感じていただければ幸いです。

一つひとつの作品の奥底には、時代を越え、海を越えた人々の憧れや葛藤、挑戦の物語が息づいています。その背景に広がる大海原のうねりに思いを馳せていただければと思います。

私は、**「鑑賞とは、繰り返し眺め、愛でることである」**と考えております。美術館での鑑賞は、一度見て終わるものではありません。同じ作品であっても、年齢、経験、その日の気分によって見えてくるものは変わります。そこに美術の尽きることのない魅力があります。

また、そのような反復鑑賞には、何度でも足を運べる年間パスポートが欠かせません。当館では販売を開始しておりますので、ぜひご活用いただき、お気に入りの一点との出会いを深めながら、ゆっくりと作品との対話をお楽しみください。

クヴェレ美術館館長　志賀秀孝

館長によるタぐれ鑑賞会の様子

年間パスポート

【開館記念展関連イベント】

講演会　※予約不要、参加費無料
開催日時：7月18日(土)14:00～15:00
「クヴェレ美術館：東洋陶磁コレクションの魅力」
講　　師：荒川正明(学習院大学教授、哲文化創造公益財団法人 顧問)
会　　場：クヴェレホール

開催日時：9月12日(土)14:00～15:00
「クヴェレ美術館：近代洋画コレクションの魅力」
講　　師：志賀秀孝(当館館長)
会　　場：クヴェレホール

建築ツアー　※予約不要、参加費無料（要入館料）
開催日時：7月25日(土)14:00～15:00
「テツ・アートプラザの設計に込めた思い」
設 計 者：服部敦史氏(大宇根建築設計事務所)
会　　場：テツ・アートプラザ内(設計者によるガイドツアー)

【開催概要】
展覧会名：クヴェレ美術館 開館記念展Ⅱ Meet 美の交差点　近代日本洋画とシルクロードの精華
※前期(～10/4)と後期(10/10～)で展示替えします。
会　　期：2026年7月18日(土)～2027年1月11日(月)
休 館 日：月曜日・毎月第2火曜日(祝日の場合は翌平日)、10/5～9、12/29～1/4
入 館 料：一般・大学生700円、高校生以下は無料。
所 在 地：茨城県水戸市泉町3-2-3
開館時間：10:30～17:30　※最終入館は閉館30分前まで。
主　　催：哲文化創造公益財団法人
後　　援：水戸市・水戸市教育委員会

【アクセス】
公共交通機関：JR東京駅(品川駅始発)から常磐線特急で約75分、水戸駅下車、北口バスターミナル4-7番のりばからバスで「泉町三丁目」下車、横断歩道を渡ってすぐ。
乗用車：常磐自動車水戸ICから約20分。水戸北ICから約15分。※提携駐車場あり

【問い合わせ先】
哲文化創造公益財団法人　テツ・アートプラザ　茨城県水戸市泉町3-2-3
Tel:029-224-7123　mail:pr@tetsubunkasozo.or.jp　URL:https://tap-mito.jp

美術館、ホール、カフェから成る文化施設

テツ・アートプラザについて

2025年11月、水戸市泉町にオープン。コミュニティスペース「クヴェレホール」を中心として、木のぬくもりあふれる「クヴェレ美術館」、明るく、開放的なカフェ「nico and … COFFEE」から成ります。
テツ・アートプラザならびに哲文化創造公益財団法人は、昭和28年(1953)に「株式会社福田屋洋服店(現:株式会社アンドエスティHD)」を水戸市泉町に創業した福田三千男理事長の父・福田哲三氏の「哲」から名付けられました。人々が集い、学びや憩い、新しいつながりが生まれる場として、皆さまをお迎えします。

泉(クヴェレ)のように美があふれる

クヴェレ美術館

コレクションの中心は、当財団理事長・福田三千男が収集した日本近現代の絵画と工芸作品、吉田石油前顧問の故・吉田光男氏より寄贈されたシルクロードの仏教美術や陶磁器、故・瀬川竹生氏寄贈の伊万里染付大皿など約630点です。所蔵品を中心とした企画展を年3～4回開催します。

生まれ変わった水戸のシンボル

クヴェレホール

明治42年(1909)、旧川崎銀行水戸支店として建設された貴重な洋風建築を改修した、広々とした空間です。
人々が自由に集えるコミュニティスペースとして、また講演会や演奏会、ワークショップなどのイベントスペースとしても活用しています。

茨城県第1号店

カフェ「niko and … COFFEE」

大人気のニコパンやスムージーなどの定番商品に加えて、シーズナルメニューも楽しめます。「LAKOLE」の生活雑貨やグロサリーも販売。店内は明るく開放的で、幅広い世代の方々がくつろげる居心地のよい空間です。

【ロゴマークについて】

ふくろうの顔とテツ・アートプラザの頭文字の「T」を融合させたマーク。
明朝体のセリフのようなディテールを持たせることで、シンプルで親しみやすい造形の中に、歴史や伝統が同居する表現としています。

デザイン：廣村正彰

＊セリフ…文字の端につけられる装飾のこと

ふくろうのモチーフは、クヴェレ美術館の収蔵品のひとつ、ヴィクトリア朝時代のイギリスで活動したマーティン兄弟による陶芸作品《ふくろう》を起源としています。美術館のシンボルとして、いつも皆様をお迎えします。

【常設展示】マーティン兄弟《ふくろう》1893年

【テツ・アートプラザ　各施設利用案内】

◇ **クヴェレホール**
◇ **カフェ「niko and … COFFEE」**

開館時間　10:00～18:00
休 館 日　月曜日及び第2火曜日（祝日の場合は翌平日休館）、年末年始
入 館 料　無料　※クヴェレホールは、イベント開催時などご利用できない場合があります。

◇ **クヴェレ美術館**

開館時間　10:30～17:30（最終入館は閉館30分前）
休 館 日　月曜日及び第２火曜日（祝日の場合は翌平日休館）、年末年始、展示替え期間

【所在地】
茨城県水戸市泉町3-2-3

【アクセス】
公共交通機関：JR東京駅（品川駅始発）から常磐線特急で約75分、水戸駅下車、北口バスターミナル4-7番のりばからバスで「泉町三丁目」下車、横断歩道を渡ってすぐ。
乗用車：常磐自動車水戸ICから約20分。※提携駐車場あり

【問い合わせ先】
哲文化創造公益財団法人　テツ・アートプラザ　茨城県水戸市泉町3-2-3
Tel：029-224-7123　mail：pr@tetsubunkasozo.or.jp　URL：https://tap-mito.jp

クヴェレ美術館 開館記念展Ⅱ Meet 美の交差点 日本近代洋画とシルクロードの精華 広報用画像

・広報用画像のダウンロードは、お手数をおかけいたしますが、外部サイト「ART PR」に会員登録のうえ行ってください。
URL：https://www.artpr.jp/quelle-museum-of-art/quelle-meet02

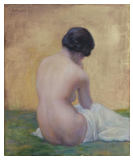
＜注意事項＞
・基本情報と作品画像使用の確認のため、必ず本掲載前に校正を広報担当者宛にお送りください。
・事前に校正をお送りいただくのが難しい場合は、媒体名と販売日(掲載日)を記載の上、メールにてご相談ください。
・広報用画像の使用目的は当施設の紹介に限ります。画像の二次利用はできません。
・広報用画像の第三者への貸与若しくは譲渡はしないでください。
・広報用画像をインターネット上に流通させるなどして、不特定多数の人物が画像資料を利用できる状態に置かないでください。
・掲載及び放映後、画像が不要になった時点でデータは削除してください。
・原則として部分利用(トリミング)は行わないでください。
・web掲載の場合、画像にはコピーガードをおかけください。コピーガード不可の場合はご相談ください。
・展覧会名、会期、会場名、作品名、所蔵先、クレジットを必ず掲載してください。
・本公開後は公開URLをご連絡ください。また、掲載紙、同録DVD等は当館まで1部ご恵贈願います。

【藤田嗣治《宝物》と熊谷守一《牝猫》の著作権処理について】
藤田嗣治および熊谷守一の作品は著作権保護期間内のため、画像利用等の際は著作権者の許諾が必要となります。

・**藤田嗣治**…以下の3条件を満たす場合、著作権料を主催者が負担いたします。別途、広報担当者宛にご連絡ください。

① 新聞及び雑誌等（展覧会主催者・開催館以外の第三者発行）紙媒体（及び同媒体の電子版）での使用
② 画像サイズが50平方cm以内　（トリミング・文字乗せ不可）
③ 付随する文字数が400字以内

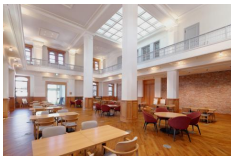
・**熊谷守一**…専用の申請書をお送りいたします。別途、広報担当者宛にご連絡ください。

 ①クレジットなし	 ②藤田嗣治《宝物》昭和29年(1954)クヴェレ美術館蔵 81.6×54.5cm 油彩・キャンバス 額装 ©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2026 E6419	 ③【前期展示】岡田三郎助《裸婦》大正14年(1925)クヴェレ美術館蔵　60.9×50.0cm 油彩・金・キャンバス	 ④安井曾太郎《黒卓の桃》昭和27年(1952)クヴェレ美術館蔵 66.7×47.1cm 油彩・キャンバス 額装
 ⑤熊谷守一《牝猫》昭和34年(1959)クヴェレ美術館蔵 24.0×33.4cm 油彩・板　額装	 ⑥中村彝《ダリア》明治44年(1911)クヴェレ美術館蔵 45.4×37.7cm 油彩・キャンバス 額装	 ⑦《仏頭》3世紀 クヴェレ美術館蔵 高25.5cm	 ⑧《白釉加彩繧繝文壺》 唐時代(7-8世紀) クヴェレ美術館蔵　高15.8cm　胴径16.3cm 口径10.2cm 底径9.2cm
 ⑨《宝相華文三彩洗》唐時代(8世紀)クヴェレ美術館蔵 高6.0cm 口径24.5cm 底径18.5cm	 ⑩《加彩武人》北斉時代(6世紀)クヴェレ美術館蔵 高31.8cm	 ⑪《均整忍冬唐草文軒平瓦(法隆寺出土)》飛鳥時代 クヴェレ美術館蔵 幅25.5cm	

テツ・アートプラザ広報用画像

・広報用画像のダウンロードは、お手数をおかけいたしますが、外部サイト「ART PR」に会員登録のうえ行ってください。
URL：https://www.artpr.jp/quelle-museum-of-art/quelle-meet02

＜注意事項＞
・基本情報と作品画像使用の確認のため、必ず本掲載前に校正を広報担当者宛にお送りください。
・事前に校正をお送りいただくのが難しい場合は、媒体名と販売日(掲載日)を記載の上、メールにてご相談ください。
・広報用画像の使用目的は当施設の紹介に限ります。画像の二次利用はできません。
・広報用画像の第三者への貸与若しくは譲渡はしないでください。
・広報用画像をインターネット上に流通させるなどして、不特定多数の人物が画像資料を利用できる状態に置かないでください。
・掲載及び放映後、画像が不要になった時点でデータは削除してください。
・原則として部分利用(トリミング)は行わないでください。
・web掲載の場合、画像にはコピーガードをおかけください。コピーガード不可の場合はご相談ください。
・掲載及び放映する際は、以下の表を参照し、クレジットの記載をお願いいたします。
・本公開後は公開URLをご連絡ください。また、掲載紙、同録DVD等は当館まで1部ご恵贈願います。

①テツ･アートプラザ	 ②クヴェレホール	③niko and … COFFEE	④ニコパン
⑤スムージー	⑥LAKOLE商品(イメージ)	⑦LAKOLE商品(イメージ)	⑧クヴェレ美術館
⑨美術館エントランス	⑩1階展示室	⑪2階展示室	